巻　頭　言

# 五月（さつき），早苗月（さなへつき）

公益財団法人日本植物調節剤研究協会　評議員
北興化学工業株式会社　取締役常務執行役員
**早川　伸一**

五月の巻頭言を担当することになり，さて「五月」と呟くと，やはり田植えの景色が浮かびます。旧暦の五月は新暦で6月から7月，「さつき」とも呼ばれますが，田植えをする月であることから「早苗月（さなへつき）」が短くなったとのこと。五月雨（さみだれ）は梅雨の別名であり，五月晴れ（さつきばれ）は本来梅雨の晴れ間，一方，新暦の五月も栽培技術の進歩，大型連休もあり，同じく田植えの時期です。

「さ」という言葉自体に田植えの意味があるので,「さつき」だけで「田植の月」になるとする説，皐には神にささげる稲穂の意味もあります（ウィキペディア）。

様々な思いが頭の中をあれこれ駆け巡りつつ，「農水省統計調査」の継続が，調査を担う人員の減少や個人情報保護の意識の高まりにコロナ禍の追い打ちが加わって，調査対象者を把握することが年々難しくなっている現状も気になり，田植えの直接的労働時間について少し調べてみました。（農林水産省統計抜粋・10a 当たり）

1950 年頃は手植，耕耘・整地作業，代掻きで平らにした田んぼに型を付ける「型付け」方式，1960 年以降，穂数確保技術（密植・早植・多肥）の定着，歩行型人力田植機の登場，歩行型動力田植機の普及拡大，高速乗用田植機が生み出され，1979 年には 14 時間程度の労働であったものが，自動運転田植機も投入された現在は 3 時間以下と大幅に減少しています。田植に投下された労働時間の推移の行間を埋めるために，田植機導入前後，東北地区の農村実態調査の記述を記載します。「田植機が急速に普及したことは , 従来の手植では全体の約 90％の投下労働時間を占めた部分を機械作業で行うことが出来る点である。従って，一家総動員的な労働力の組織化は消滅し , 僅かに 2 名で済ませている。ただここで注目しなければならないのは , 補植作業時間が著しく多くなり , 手植時代の実に 3.7 倍もの多さに達していることである。」　除草時間の調査結果もあるので，少し触れます。1950 年以降，手取り除草（雁爪）に手押式の中耕除草機，稗抜きに畦畔などの管理もあり，雑草との闘いが 31 時間に集約されています。除草剤開発の経過は省略し，現在，省力製剤を使用すれば 0.5 時間以下となることは明白です。

統計調査により 1970 年以降，水稲農家が長時間労働から解放された経過が証明されていることは大変素晴らしいことだと思います。

また，精度の高い農林水産省の各種統計調査に加え，研究機関及び大学などが実施する実態調査は日本農業の実態推移を把握し, 将来に向けた活動の糧としてとても重要ですから，これからの統計行政及び農村実態調査の在り方に注視する必要があります。

最近の除草機作業について検索すると乗用自走式の草刈機や乗用型田植機に取り付けることができるアタッチメント式除草機等様々です。

「みどりの食料システム戦略」の目指す田園風景（循環型農業）は過去に回帰することではなく，科学技術の進歩に根差した風景です。

戦後の栽培技術の発展は食糧増産を国是に畦を歩く田回りに代表される勤勉で向上心の高い農家の方々に因る所も大きいと思っています。

農業関連産業に従事する者として統計データを眺めながら幾多の先人の功績を改めて認識した次第です。